

JBL4350A 奮闘記(12)

—エピソード—

1. 導入後の経緯

陋屋に迎え入れた後、オーディオ仲間やアマチュアオーケストラのコンサートマスターをしていた会社の同僚などから悪口雑言を言われ続けてきた JBL4350A ですが、中には Jazz 専用にしたらどうかとお節介をいうものもいてクラシックは無理というのが共通の認識でした。

12 回にわたり奮闘記と称して 30 年を超える経過を述べてきましたが、実質的にはそれほど手間をかけてはいません。技術職の常として、またその責任範囲が広がるにつれ、何か月もアンプの SW を入れない期間もありましたし、震災によって建て替えをする間、1 年間倉庫に預けることになりました。この間オーディオ仲間たちが手分けしてアンプの修理を引き受けてくれ、新築なって戻ってきた時、修理済みのアンプと工具をもって駆けつけてくれ、引っ越しの手伝いをしてくれた若い部下たちも一緒に復活なった JBL4350A の三大テノールを聴いた時、期せずして拍手をしてくれました。その後、定年も近づいてきたことから、もう一度オーディオに力を入れようとした経過が前報までの報告内容です。

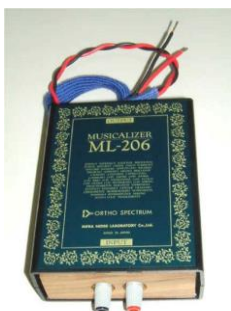
2. 経過の要約

アンプは決してそのように意図したわけではありませんが、ビンテージの真空管アンプになってしまいました。アナログ系は、ターンテーブル、アーム、カートリッジ、トランスなどいずれも定評あるもので落ち着きました。デジタル系の進歩はインフラノイズ社のクロック関連機器が支えてきたと言っても過言ではありません。これとフィリップスのスイングアームメカの組みあわせがうまくマッチしたと言えます。PC オーディオや AV 機器もクロック関連機器の支えが必要でした。ケーブルについては、前報(11)に述べたとおりですが、最後のスピーカーリベラメンテのインパクトが大きかったので、すべての成果をかつさらったようになってしまいました。

3. 若干のノウハウ

特に触れておきたいのはインフラノイズ社のムジカライザー ML-206 (写真) です。このムジカライザーはあるとき、大阪のオーディオフェアで知って最初に AXIOM80 用に導入したのですが、その後、JBL4350A 用にも追加しました。この時の顛末が、生まれ変わった AXIOM80 と題して、M 谷氏が現在は閉鎖されたホームページに投稿されたので、Letter to the Editor のページに転載させていただいて

います。現在はその他 FAL C90EXW や EMI のレコーディングモニターにも装着され、なくてはならないものとなっています。



このムジカライザーが契機となってオーディオ仲間が増えていき、インフラノイズの製品を継続して導入することになったことは、編集者 Profile のオーディオにおける知遇と啓発に述べております。

その他、若干のノウハウ的なことを記しますと、真空管については根気よく選別し初段や位相反転段やドライバー管には金属メッシュカバー(写真)をかぶせています。



スピーカー本体は堅牢な台に載せたりやボードを敷くのが通例ですが、床に直置きし J1 プロジェクトのインシュレーターを数枚かませただけです。但し、前面の床に水槽の砂の砂袋(写真)を置いて床振動をダンプし、その上に枕(写真)を置いて吸音に努めています。その他ウーファーのフレームにレゾナンスチップを貼ったり、導入初期に内部配線材を交換したりしています。



もう一つ特筆すべきなのは、2440 ドライバーホーンの音響レンズの交換です。凝り性のオーディオ仲間が自作された米松製の音響レンズ(写真)を譲り受けて、オリジ

ナルのぺらぺらのプラスチック製 2308 (写真) と交換しています。当初はオリジナルのスラントプレートの中に消しゴムを切って挟んだり、レゾナンスチップを貼ったりして鳴きを止めようとしたのですが、この米松製で素直な中音が出てくるようになりました。サイズが不足しているのが残念です。ある JBL ユーザーがこの JBL はまったく JBL の音がしないと言って驚かれていましたが、この音響レンズの効果効いているのかも知れません。



部屋については建て替えの時、本体を鉄骨仕様とし、床に 10cm のコンクリートパネルを敷き、窓は 2 重窓としています。ルームチューニングについてはオーディオ実験室のルームチューニングのページを参照してください。

4. まとめ

導入期の後、停滞期を経て復活期となったわけで、最後の詰めがスピーカーリベラメンテとなりました。導入直後、これは鳴らしこむのに一生かかるなと思ったのですが、そのとおりとなりました。後しばらく、残りのオーディオ人生で何ができるか考えてチャレンジしていきたいと思っております。

以上